

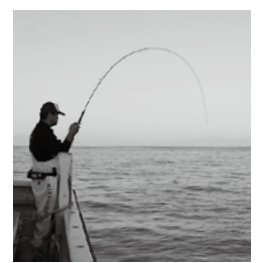
●Tackle Guide
 アオリ用の竿は全長3〜3.5メートルのロングロッドと、全長1.5メートル前後のショートロッドに大別される。東京湾ではロングロッドが主流になっているが、相模湾ではショートロッドも多く見られる。竿が満月に絞り込まれる釣趣のロングロッド、イカを乗せたときの衝撃と引きがダイレクトに伝わるショートロッド、各自の好みで選ぶのがいいと思う。

●二日連続でボウズ
 さて、私はといえば、カメラを持ってぼんやりしていたわけではない。取材の2日間、竿を振って振って振りまくり、なんとか一杯のアオリイカを乗せようとした。竿は3メートルのロングロッド、タックルボックスから過去の実績の高い精鋭餌木を

良型だ。中オモリ式のシャクリ釣りの面々を尻目に、餌木直結仕掛けてイカの触りを取って合わせて掛けている。さすがティップランの創始者で、その技を目の前にしては驚くほかなかった。船長は葉山・佐島沖(亀城根)、鎌倉沖へとポイントを移動する。鎌倉沖のタナ18メートルでは、反対舷で竿が曲がった。カメラを持って駆け付けると、ほぼ同時に隣の人の竿も曲がるダブルヒット。アオリイカは秋・冬は小群れで、春から初夏の産卵期はペアで行動していると言われ、だれかが乗せたとき、連続してほかの人にヒットすることがしばしばある。これはその典型で、釣れ上がったのは片方はメスで片方はオス、つがいのイカだったのである。



▲ティップラン式で2杯を釣ったイカ先生、さすがです



▲無心でシャクればイカは乗ってくる!?

取っ替えひっ替え交換する。澄み潮にはナチュラルカラー、濁り潮にはアビールカラーのセオリーを守ったり、その裏をかいてみたり。シャクリの加速を大きくし、リアクションバイトを誘ったり、インターバルを短くして周りに人よりもアビールしたり、これまでのアオリ釣りの経験フル動員して、ただ一杯を乗せようともがく。しかし、何十回、何百回とシャクリを繰り返すうち、このような理屈は頭から消え去って、気持ちだけでシャクリようになる。心が大事なんだ、乗ると信じれば乗るのだ、神様アオリをください、そんな唯心的な気持ちになったところで取材が終わった。二日連続でボウズである。

こんな書き方をすると、アオリはひどく辛い釣りだと誤解されそうだが、春の大型狙いでボウズはよくあることで

●船宿information
 相模湾腰越港
蒼信丸
 ☎0467・91-0323
 (詳細は巻末の情報欄参照)



関塚 一浩船長

▶料金=アオリイカ予約乗合 一人1万円(水付き)。女性、子ども割引あり
 ▶備考=予約乗合、5時半までに集合。餌木、中オモリ販売あり。貸し道具あり。各種仕立受付。腰越港駐車場700円

これがあから釣ったときの喜びは大きくなると思う。かつて相模湾でアオリイカ乗合が始まった1995年春、やはりボウズ連発に泣いていたときに、やっと乗った一杯の感動は今でも忘れられない。ドラグから糸を引き出し、竿を立てられない強烈な引き、それが2.5キロのアオリイカだった。数少ない大型狙いだからこそ、春のアオリ釣りには感動があるし、感動を得るチャンスはだれにでもある。6月も乗っ込みアオリのシーズンが続く。蒼信丸では釣れている限りはアオリイカ狙いで出船し、8月からはキハダ乗合に変わったあと、10月からはまたアオリイカ乗合が再開となる。

船中一杯も釣れなかったのだ。このところ曇り空だったのが急にピーカンになって、潮が澄み気味という条件も加わりアオリは超不機嫌になつてしまった。西はエボシ岩、東は長者ヶ崎と船長は実績ポイントをフルに回ってくれたが、餌木を抱いてくれるアオリイカはいなかった。今日はイカ先生こと富所潤さんがプライベートで乗船している。取材者にとっては強力な助っ人だ。イカ先生は中オモリを使わず、重めの餌木をキャストする攻めの釣りで臨む。空はピーカン、コンディションは昨日と変わらないように思えるが、今日はどうだろうか。最初に江ノ島裏を流した後、潮が動かないと見た船長は一

ずはおかみさんがマイクを持ち、船のサービスの説明、コロナの感染対策、ライフジャケット装備などをアナウンスする。離岸すると今度は関塚一浩船長が仕掛けや釣り方の説明などを詳しく教えてくれる。初めての人も船での振る舞い、釣り方に迷うことはないだろう、それほどいいものだ。ほどなく江ノ島裏に着き開始の合図が出た。タナは海面から中オモリまで8メートルと浅い。前日は1.3キロを頭に船中10杯の好釣果。その前日には2.5キロも出ている。今日も釣れるに違いない、ビッグワンの幸運はだれがつかむのか? この時点では明るい未来しか見えていなかった。ここで話は翌日に飛ぶ、私は2日続けて腰越港に立っていた。そう、昨日は奮闘努力のいかにもなく、アオリイカは

春が訪れ水温が上がると、アオリイカは浅場へと乗っ込んでくる。一年を通して最も大型のアオリイカが釣れるシーズンだ。相模湾腰越港の蒼信丸では、4月から乗っ込みの大型が顔を出し始めていた。4月9日には船宿レコードとなる4.3キロのモンスターサイズが顔をだし、その後も5月1日には2.9キロ、5月14日には2.5キロと、アオリファンのだれもが

夢見るビッグワンが上がっている。いくなら今だ! と張り切って腰越港へ向かった。**強力な助っ人登場** 蒼信丸のアオリ乗合は5時半までに集合で、釣り人がそろい次第出船する。この日は5時を20分を回ったところで全員がそろった。ていねいな事前アナウンスが蒼信丸の特徴でもある。ま

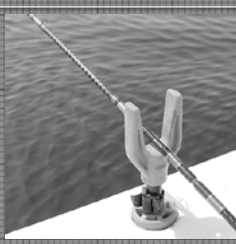
初夏のアオリは大型狙い 難しいから感動がある!

●相模湾腰越港発!江ノ島・葉山沖
 フィッシングライター 伊井泰洋 Yasuhiro Ii



▲蒼信丸は出船前のアナウンスがとてつもない

知得! Tips and Tricks
 ロングロッドを使うときは Y字型の竿受けは必需品



アオリイカ釣りは、常に手持ちでシャクリのため、ロッドキーパーを使う人はほとんどいない。とはいえ、ロングロッドの場合はポイント移動のときに竿立て穴に立てると竿先が揺れるので絡みやすい。このときに重宝するのがY字型の竿受けだ。オモリを竿先にぶら下げた状態で竿受けに置いておくと穂先絡みも防止できるし、投入もスムーズに行く。シロキスなどの浅場小物釣りのときにも便利なので、常備しておきたいアイテムだ。

▲ショートロッドでも竿受けはあると便利